

海外インフラ SAR衛星データ活用

シンスペクティブと提携

オリコンサル
グローバル



新井CEO（左）とオリコンサル
グローバルの米澤
栄二社長

オリコンサルグローバルは、宇宙ベンチ

ヤーのSynspective（シンスペクティブ、東京都江東区・新井元行代表取締役CEO）と東南アジア・南アジア・アフリカ地域における運輸交通インフラ分野での衛星データ活用促進のための戦略的提携覚書を結んだ。オリコンサルグローバルが手掛ける大規模インフラ事業で施工監理、点検、維持管理（O&M）分野におけるSAR（合成開口レーダー）データを活用したモニタリング技術の実装に共同で取り組み、当該国の社会課題解決を通じたSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献していく。

シンスペクティブは、内閣府「IMPACT」プロジェクトの成果を応用した独自の小型SAR衛星の開発・運用に加え、衛星データ・ソリューションを提供している。すでに運用を開始した初号機を含め、2020年代後半までに30機の衛星コンステレーション構築を目指しており、低軌道を周回する30機のコンステレーションにより、世界のどの地域で災害が発生しても2時間以内に観測することが可能になる。

一方、オリコンサルグローバルが世界各国で手掛ける道路や鉄道、港湾、空港などの運輸交通系インフラ整備事業では、施工段階や運用中の地盤沈下や周辺建造物の変位の計測が重要となる。

これらの数値をシンスペクティブが保有する衛星データで広範囲かつ短時間で計測・解析できれば、安心安全に加え、インフラ開発のイニシャルコストやライフサイクルコスト削減の面からも大きな効果が期待でき、都市機能としての強靱で持続可能なインフラシステムも実現できるとしている。